

不登校の未然防止と支援の充実について

【武蔵村山市立 A 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、「学業の不振」及び「友人関係のトラブル」に起因して現在登校できない生徒と、現在は学校に来ているがアセスメントアンケート等から今後不登校になる可能性がありそうな生徒とした。

具体的な取組

【支援会議】

不登校担当コーディネーターと各学年の教育相談担当、SC 及び管理職、SSW での定期的な支援会議を行うことで、現状把握及び分析、必要な対応について多角的に検討し、当該学年や担任に対する支援を充実させた。

また、校内研究とタイアップし、不登校に関する教員の理解を深めるとともに、ICTの活用や特別支援教育の充実による生徒支援手段について研究した。

【生徒の活躍の場の設定】

運動会や合唱コンクール、学年行事等において生徒で実行委員会を編成し、「自分たちで行事をつくる」ことを通して自己有用感や達成感をもたせるとともに、よりよい対人関係の構築を促した。

【学習支援】

外部人材を活用し、授業における学習支援を行うことで、「できた」「分かった」という達成感をもたせ、学業の不振による不登校出現の抑制を図った。



【「居場所づくり」の推進】

校内に外部人材を活用した別室対応教室の設置、学校外で市の適応指導教室との連携を図ることで、教室に入れないう生徒の学習支援や相談ができる居場所づくりを推進した。

【アセスメントアンケートの活用】

「アセスメント」を年複数回行うことで、生徒の学校満足度、侵害認知等を把握・分析し、その結果を学校での指導に生かすとともに、面談等でも活用した。

成果

昨年度不登校だった生徒が別室や適応指導教室でも学校に来られるようになったケースが増えた。また、不登校になりそうな生徒に対し、組織的に生徒・保護者を多角的に支援することで、未然防止を図ることができた。

課題

起立性調節障害等に端を発して学校に来られなくなる生徒に対する支援のあり方について充実を図る必要がある。